

第24回パネル展「私の中で今、生きているあなた」

IN浜田

2011年7月22日6時代のNHKニュース

2011年7月23日パネル展会場



浜田市役所、浜田社協の皆様の献身的な貢献に感謝
フォーラムに150人、パネル展に272名の来場者がありました

2011.7.23 山陰中央新報

(第3種郵便物認可)

一緒に自死問題考えて

写真や遺族の手記展示



浜田市の野原町の市総合福祉センターで開かれる「しまね自死遺族フォーラム2011 in 浜田」を翌日に控えた22日、主催する「しまね分かち合いの会・虹」のメンバーらが、遺族の手記や遺書などを並べたパネル展の準備に汗を流し、会場準備を整えた。

きょう浜田でフォーラム

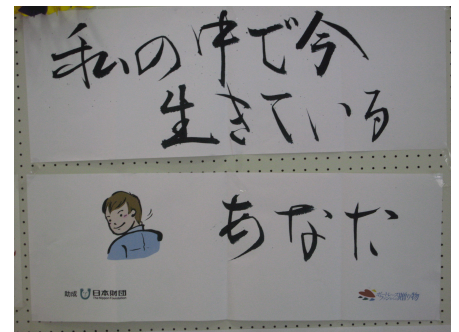
フォーラムは、県内で定期的に自死遺族の集いを開く同会が、自死予防の取り組みと遺族支援の輪を広げよう、と企画。石見部では初めての開催で、参加者が遺族の講演や身近な自死と向き合った人の体験発表を通して自死問題と対策を考える。午後1時から、入場無料。

パネル展は、フォーラムを絶った遺族・圭輔さんのパネルを身につめる青木恵理子さん。会場には遺書や遺族の手記が並ぶ。

同会の桑原正好代表は「遺族の生の声を聞いてほしい」と来場を呼び掛けている。

ムに併せて23、24の両日、同センターで開催。この日は同会のメンバーらが、職場の悩みなどをうつつ病を患い、自ら命を絶った全国の男女50人の写真や遺書、遺族の手記、自死に至る経緯を記したパネル150枚を並べた。

県内からは松江市の青木恵理子さんの長男で、2006年に自死した圭輔さん。当時(22)のパネルを展示。いじめを受けて人間不信に陥り、自死に至る経緯を書いたパネル、投身後に病院で治療を受ける圭輔さんの写真など、来場者の胸を締め付けるようなパネルが並んでいる。



山陰中央新報 2011年(平成23年)7月24日(

浜田で初の自死遺族フォーラム
遺族ら150人参加

山陰両県の自死遺族でつくる自助グループ「しまね分かち合いの会・虹」(桑原正好代表)は23日、浜田市野原町の市総合福祉センターでフォーラムを開いた。全国自死遺族連絡会で世話役を務める田中幸子さん(62)の講演などがあり、参加者は自死の予防や遺族支援の方法について考えた。

フォーラムは石見部では初開催。山陰両県の遺族や関係者ら約150人が参加した。全国に先駆け仙台市で自死遺族の会(藍あい)の会を立ち上げた田中さんは、自らの活動と遺族支援の方法について講演。自死への偏見や差別が消えない現状に触れながら「決して特別な人が遺族になるわけではなく、人ごとではなく自分にも起こりうることだと考えてほしい」と強調した。

た。その上で「自死予防にカリスマはいらない」とし、ソーシャルワーカーや市民一人一人が意識を高めることの必要性を説いた。

フォーラムではこのほか、遺族のついでに弾き語りを続ける木下徹さん(23)＝大阪市在住＝のミニコンサートや遺族の体験談を交えた意見交換会などがあり、遺族の心境的や行政支援態勢に関する質問が出た。